

19年前、出身地の横浜で高校生活を送っていた私は、列車で北海道へ旅行に行くというバイト仲間に強引について行きました。そして、特急を乗り継ぎ3日目に初めて釧路湿原を見たとき、『日本にこんなところがあるのか!』と感動したのを今でも覚えています。その縁もあって北海道の大学に進学した私は、ヨーロッパでは悪魔の趣味と言

われる釣りにはまることになり、釣り天国である北海道に残ることを決心し、そのまま北海道庁へ就職することとなりました。現在、漁港事業に関わっているのもこうした縁があるのかも知れません。

ところで、技術士との出会いは大学生の頃、当時の恩師に、『これからの公務員は資格を持っていないとダメだ』と言われ、いろいろ資格がある中で一番難しそうなやつはどれだろうと考え、就職後、安易な気持ちで技術士の1次試験を受験したことがきっかけです。ところが、日々の業務を重ね、ゼネコンの方やコンサルの方と話をしていくうちに、『みんな様々な資格を取り、一生懸命スキルアップに努めている。なのに発注者側である公務員に資格保持者がいないのはおかしい』と真剣に思うようになり、数回目の挑戦でようやく取得することができました。

ちなみに口頭試験会場だったフォーラム8は、高校生時代の一時期、渋谷で暮らしていた私の通学路にあり、当時毎日見ていた景色にまた出会え、これも何かの縁だな〜とつくづく感じる次第でした。

金子 寛次 (かねこ ひろつぐ)

●水産部門(水産土木)

勤務先

北海道水産林務部漁港漁村課
海岸漁港事業グループ



→ 次号は、井上真仁さん(水産部門)

私は入社当初、海外事業部に配属されましたが、現在は交通部に所属しています。このような異質な経歴を持っていることから、これまで延べ10カ国ほど海外赴任する機会があり、多くの経験をさせて頂きました。入社間もなく赴任したブータン王国では、頭上には、“天にある大河ではないか”と感じた天の川、足元には、その大河を映し出し

ているのかと思えるほど、辺り一面に広がるホテルのイルミネーションなど、これまで体験したことがない幻想的な世界の中で、自然環境保全を考慮し、経済発展のための必要最小限な社会インフラ整備のあり方について、朝方近くまで相手国政府関係者達とアッラーという地元酒を片手に明け方近くまで語り合いましたが、自然環境保全まで手を伸ばせられない厳しい実情を痛感しました。そんな“ほろ苦い”海外デビュー経験から、今年で18年目になろうとしています。“土木は経験工学だ”とよく言われておりますが、当時は互いの主張を理解して貰うことばかりに注視した記憶がありますが、ふと振り返りますと、これまで得た知見・経験から“道路計画”というツールを使い、当時は解決出来なかった、“自然との『完全な両立』ではなく、『歩みよる共生』”というアプローチもあったのではないかと思います。現在の業務地域は北海道を中心に活動しており、これまでの海外業務内容とは大きく変化しておりますが、アプローチは同じ。今後も“元気ある北海道”に向け、休まず日々技術研鑽をしていきたいと考えています。

西村 公郎 (にしむら きみお)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社 ドーコン
交通部



→ 次号は、市之宮広さん(建設部門)